

PHD LETTER

65

PEACE・HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

1997・12

PHD運動とは1962年より約20年間、ネパール、東南アジアを中心とした発展途上国で医療活動に従事した岩村昇博士の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和づくり(Peace)健康づくり(Health)を担う人材をつくる(Human Development)運動を世界中にひろめることを目的として、1981年からはじまりました。

- 帰国研修生は、いま…………… 2 P
- トンガ人がでっかいワケ～9月の寄り合いから～…………… 6 P

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：草地 賢一
住所：〒650 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL (078) 351-4892 FAX (078) 351-4867
定価：100円



スリランカ

「ホレ、食べてみ」と
オヤツを差しだすじいちゃん
炎天下の仕事がひとくぎりついて
日陰でひとやすみ

草の根の人々を訪ねて Report from Asia and South Pacific

8月、約8年ぶりにスウェーデンへ行きました。瀬戸内海、地中海、バルト海などいわゆる閉鎖性海域の水質汚染を研究者と市民、政府がどう協働しながら改善するかという環境会議出席のためでした。その後数日間、政府開発援助庁やキリスト教会を訪ね開発教育（グローバル教育と改名されていた）の実状を学びました。

8月23日既に煙害が発生していたスマトラに9人のスタディツアーの一行と入りました。交流、協力が始まって12年。受入れ側のまとめ役シャリフ・アリ先生も州議会議員を引退。帰国した研修生にも結婚、出産、転職といろいろな状況の変化があります。詳しくは別掲のレポートをお読み下さい。今回は二カ所の農村の訪問も、今後の協力の方向を探りました。また例年必ず訪ねるプキティンギ市の戦跡「日本のトンネル」の入口にある、当時の様子を説明したレリーフが塗りつぶされているのにショックを受けました。



トンネル前のレリーフ（左側）

帰国研修生たちは、いま

9月はタイとスリランカを訪ねました。タイはちょうど27日に行われる新憲法の国会採択にむけて大変盛り上がった市民の動きに圧倒されました。それを支持する薄いグリーンの旗やリボンがチェンマイにも東北タイにもあふれていました。



大豆の収穫の途中で一服（右手前ブリチャーさん）

北タイのブリチャーさん（85年研修生）のお店は順調。東北タイのパムルンさん（89年短期）は今や農民運動の国民的リーダーとして活躍。一方でサウエーさん（91年）は3カ月前から台湾へ出稼ぎ。パーツ経済の悪化の中300万人ともいわれる東北タイのバンコク出稼ぎ者のうち100万人が故郷へ帰り仕事もなく苦しみ、更に残りの200万人が村へ帰ればパニックが起きると心配されていました。

9月24日深夜バンコクからコロンボに到着すると、エルニーニョ現象の影響と見られる季節はずれの雨が激しく降っていました。不順な気候により種もみの発芽が思うようにならないことや早ばつで3度（1年半）の収穫が得られなかったことなど、ポヤワラーナの農民は嘆いています。地主のような富農を除いて余裕をもたない農民は激しい貧しさに喘いでいます。14年に及ぶシンハラ人とタミール人の内戦で経済も混乱しています。

その中で小さな朗報は係争中であつたため池の土地問題が村に有利に解決し、やっと工事が着工していたことです。今度は多分3月には完成とのこと。もしこれが実現すれば村の様子が好転すると期待しています。

タイでは経済危機の中で文字通り民主憲法の成立。スリランカでは封建地主制が残る村での農民の苦闘。しかし両国いずれも帰国した研修生の中にある奮闘を想い、何とか地域の民主化とそれに伴う経済生活の改善を実現して欲しいとの祈りにも似た思いをもって帰国しました。

総主事 草地 賢一

第11回インドネシア・スタディツアー

8月22日～31日

恒例のインドネシア、西スマトラへのスタディツアーに今年は保健の指導者2人を含む10人で出かけました。

すでに日本での研修を終え、帰国した10人の研修生を訪ねるとともに、今年は将来研修生を招くことになる候補地へも出かけ、村の生活の様子などを聞きました。この2つ村へは12月に職員が再度訪ね、調査を続けます。

参加者のレポートから抜粋で報告します。なお、保健婦のお二人には、指導者としてのレポートをお願いしました。

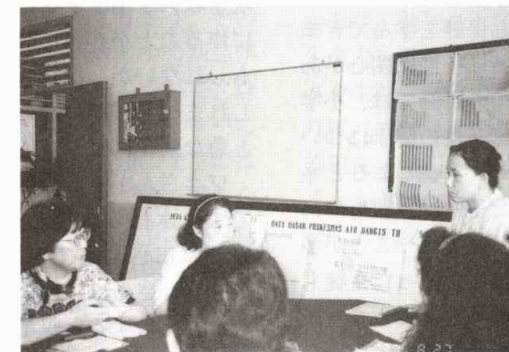
「診療所スタッフとの交流会」

たけなみちよ
竹中 道代（高砂保健センター）

この度のインドネシア旅行で、アイルバンギス村では、ラッドさん（94年研修生）の調整で、村の診療所スタッフの皆さんと情報交換する機会に恵まれた。

診療所からは、女医・看護師・ケースワーカー・事務職の方が、自己紹介後、各々の職種の役割と課題を話された。

壁には赤と緑で色分けされた棒グラフが貼ってあった。目に止まったので、尋ねてみると、月別妊婦受診状況の表だった。ロザー看護婦によると、栄養のバランスが悪くて、流産も多いとの事。イン



アイルバンギスの診療所で（左から竹中さん、寒者さん、ラッドさん）

ドネシア政府は子供2人を推奨しているが、家族計画がうまく進んでない。

子供の病気の予防のため、予防注射を無料で実施。村の集会所やモスクを廻りながら、日本とほとんど同じような種類の予防注射をしているが、受けようとする人が少ないらしい。

大きな課題は、毎年発生というする下痢を伴う病気。スタッフの人には、理由らしきものがはっきりと見えない感じだったが、日本から行った私達には、所かまわず捨てられたゴミや淀んだ川や溝から発生するものでないかと疑われた。

溝掃除、ハエの駆除等がもっと忠実に実践されたら、伝染病の発生もかなり抑えられるのではないだろうか。

お互いの活動を確認し合いながら、いつの間にか交流会は、2時間も経過していた。

「スタディツアーで保健衛生・栄養の研修生にあつて感じたこと」

かんじゅめくみ
寒者 恵（三木市健康課）

待ちに待ったスマトラ島のスタディツアーに参加した。日本で研修した成果と、研修生の生活そのものを見ることで、今後の研修の受け入れに役立てようと思つての参加であつた。

ところが、研修生の現実は非常に厳しく、たとえ1年間日本で研修を受けてもそれを自分の国でどのように生かすかは、とても難しいことである。それは日本とインドネシアでは、保健衛生や栄養についての考え方が、まったく違うからである。日本では、自分の健康を守るため栄養や保健衛生に気をつけているが、インドネシアでは、毎日の生活を送っていくことに精一杯という状況の中で、栄養や健康のことを、村の人たちに考えて

そして、彼女たちが途中で挫折しないよう、2～3年毎に指導者がスマトラ島を訪れ、研修生と話し合うようなフォローアップが必要ではないかと感じた。それには指導者側がもう少し研修生の国のことを勉強する必要があると痛感しながら、このスタディツアーを終えた。

よしたさやか
藤田 佐弥香（奈良県生駒市 高校生）

スマトラの人々は毎日をしっかりとっている感じがした。私なんて親にお金を出してもらい生きている感じがした。そのくせ、真面目に生きていないときもある。自分の甘さを実感させられた。自分のためにやりたいことのために、頑張ってみるのもいいと思つた。

おもとようこ
小元 陽子（東京都 専門学校生）

スタディツアーの最後の日に、私は援助とはつくるものと言いました。今考えても何をつくるのか、それに合った言葉がうまく見つからないです。感覚としては、ワクワクするようなドキドキするようなことです。

たけなみちよ
竹中 知恵美（兵庫県高砂市 高校生）

なんていうのか不思議な気分。いろんな人と出会い、いろんな人と接し、いろんな事を考えた。体全体でインドネシアを感じたつもり。なんか切なくきゅんとなる。そしたら今度は笑いがとまらない。変だ、変だぞ。どーなってるんだ?! あっそうか、私、インドネシアという所が好きになっただけなんだ。

わたなべきたろう
渡辺 喜太郎（東京都 会社員）

研修生たちが、男性は「漁業」に女性は「保健衛生」と地域社会で試行錯誤を重ねながらも、学んだ技術や考え方をどのように生かすかと前向きに頑張っている姿を見る時、少なからず、微力であつても力になりたいと思う。と同時に日本人が失いつつあるモノを逆にインドネシアの人々から温かいモノを頂戴した気がした。感謝したい気持ちである。

おたがいSAMA-SAMA。助け合い、励ましあえる仲間でありたいと、やや身勝手に思っている。

年末募金にご協力をお願いします。

今年度の財政状況について

事業報告書をご覧の方はもうご存じのこととは思いますが、ここ数年にかけて、PHD協会の財政状況は全般的に厳しい状況です。今年度も例外ではなく、これまで苦戦を続けています。その中で寄附収入も伸び悩んでおり、ここ数年の展開から今後を予想すると、昨年度を下回る事が予想されます。

設立当初は、例えば基本財産3億円あれば3%の金利で団体の管理運営費を捻出し、会費・寄附にて事業を行うことができる、と予想をしていました。3600万円スタートした基本財産は少しずつ積み上げ、現在2億8000万円になりました。しかし、昨年度は財政難から新たな基本財産の積み立てを行うことができず、今年度もこのままでは積み立ては難

しいと思われます。また、ご存じのように長期にわたる低金利であり安全な運用を考えると、金利は1%程度しか見込めません。

収入増のための努力

そのような厳しい財政状況に対し、私たちは6月の会報発送に合わせた会員拡大キャンペーン、各種講演活動、バザー・委託による物品販売など収入増の努力を行ってきました。また、会費納入の途絶えている会員の方々についても呼びかけを行い、何人かの方々には再び会費を納入していただくことができました。

助成金の導入について

これまでPHD協会は民間の立場を大

事にしたい、助成の成否によらない安定した団体運営をしたいと考えてきました。そのため政府系の補助金については申請してきませんでした。財政状況の悪化に伴い、今後はそれらの導入を検討していくことも必要かと考えています。しかしながら、今しばらくは自己資金で運営していきたいと考えています。

年末募金にご協力をお願いします

そこで今年度は年末募金でここ数年いただいた平均額の約800万円、昨年度の実績917万円にさらに上積みし、目標額を1200万円と設定して、ご協力を依頼する次第です。

皆様、年末募金にご理解、ご支援の程、何卒よろしくお願ひいたします。

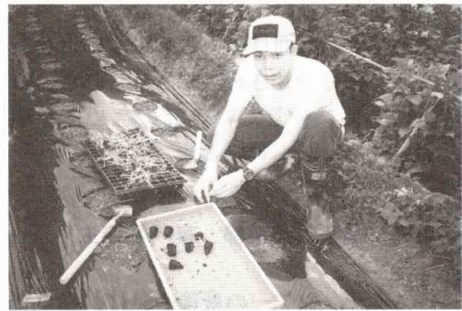
15 期 生

日本での生活にも慣れ、4人の研修生は元気に研修を続けています。それぞれ、兵庫県外での研修にも出かけています。

アンボン・クルワンさん

(タイ)

田中五郎氏、宍粟郡農業改良普及センター、藤元数夫氏、後藤登吾氏(兵庫県波賀町、山崎町)～但馬農業高等学校(兵庫県八鹿町)、西沢泰裕氏(兵庫県豊岡市)
(9月3日～10月15日)



やさいづくりを学ぶアンボンさん(兵庫県波賀町)

但馬農業高校では、生徒たちと一緒に豚糞と鶏糞で作る堆肥作りを経験しました。スコップで切り返し3～6ヵ月かけて作る堆肥は、そのまま村でも作ることができそうです。アンボンさんの村では、化学肥料が入っており、動物の糞や草を肥料として利用することは少なくなっています。しかし、化学肥料は村では安くありません。アンボンさんは、今は自分の畑はありませんが、帰ってから農業をして、豚や鶏も飼って堆肥を作ると話しています。

ハリエオ・ゲオバさん

(パプアニューギニア)

ちろりん農園/西川則孝氏(愛媛県丹原町)～瑞穂アジア塾、中川克敏氏、岩根英則氏、日高久志氏(島根県瑞穂町、川本町)～兵庫県中央農業技術センター(兵庫県加西市)/丸山悦司氏(兵庫県加古川市)
(8月20日～10月31日)

ハリエオさんは、日本での研修からどんな技術を持って帰れるのか、具体的な研修の成果は何なのか、考え続けています。というのも、主に研修するのは、有機農業ですが、それをずっと実践してきたハリエオさんにとって特に目新しく感じられることはないようです。その中で、ハリエオさんが特に興味を持ったのは小さな農業機械で

研 修 生 レ ポ ー ト

す。ハリエオさんの村では、農機具は掘り棒とスコップだけなので、耕作可能な面積も自然と限られたものになってしまいました。機械の操作と簡単な修理方法を学んで、少しずつ規模を広げたいという希望もありますが、それが具体的にどんな風になるのか、それがハリエオさん自身の生活にどんな変化をもたらすのか、ハリエオさんは思案しています。

サビトリ・シュレスタさん

(ネパール)

国際交流の会とよなか、松野春子氏、葛西美紗氏/井上悦子氏(大阪府豊中市)～岩佐康子氏(兵庫県姫路市)～三木市健康課、兵庫県三木保健所、高橋武子氏、芝美代子氏/垣内敏氏、山口久則氏(兵庫県三木市)～西脇小学校、伏苑野小学校、田辺第三小学校、田辺東部小学校、北山敏和氏、和歌山県海友会/高城浩之氏、木本富夫氏、初山丈夫氏(和歌山市、田辺市)
(8月22日～10月22日)

和歌山県ではこれまでも農業研修を受け入れていただけてきましたが、今回初めて、保健の研修が実現しました。サビトリさんは、これまで日常生活の中でできる病気の子供という観点から保健を学んできました。サビトリさんは特に子供に関心があることから、和歌山県での研修では、小学校の保健室、養護学級で子供の健康について学びました。サビトリさんによるとネパールでは障害を持った子供は、親も外に出しながら、家の中だけで育てることが多いようです。小学校で障害を持った生徒も先生たちが丁寧に付き合うことにより、十分に意志疎通が可能だとわかり、よかったと話しています。

今後は、子供の健康と洋裁、パッチワークなどの手工芸を中心に研修していきます。



小学校の授業を見学するサビトリさん(和歌山県田辺市)

ワニ・ソミさん

(パプアニューギニア)

原田富生氏、尾崎壽氏(大阪府能勢町)～藤井誠次氏(神戸市)～石垣信也氏、鈴木正明氏、田中光彩氏、佐々木成男氏(鹿児島県出水市、高尾野町)、ぽっこわば耕文舎(熊本県長陽村)
(8月19日～10月14日)



石垣さんの畑でやさいづくりを学ぶ(鹿児島県高尾野町)

ワニさんの話を聞いていると、ワニさんの村は自然環境にも恵まれ豊かなことが感じられます。ワニさんも、村の生活で特に困ることはない自信をもって言います。今は自給を基本にした農業ですが、もし、現金収入を増やすなら、売れる作物を大量に作るが必要になり、収入は増えるかもしれないが、投資も増え忙しくなるかもしれません。それなら、今のままがいい、と急な変化には否定的です。

ワニさんが特に興味を持ったのは、水田です。水稲の収穫と精米までを学ぶために、原田さん宅での再研修に出かけました。ワニさんは、陸稲を作っていますが、それと比較すると収量も多く、草取りの手間も少なく済みます。ワニさんの村は水田が利がよいので、水田に挑戦することも条件的には可能なので、来年、自分の畑の一部に水田を作って試したいと張り切っています。

今年度は、農業研修生が例年より多いこともあり、兵庫県内外で初めてのところにも出かけ研修を行なっています。

牛尾武博さん(兵庫県神崎郡)からご紹介いただいた四国のちろりん農園西川さんと、以前から会員で、昨年パプアニューギニアのスタディツアーに参加した九州の石垣さんのところにも出かけ研修しました。

石垣信也さん(ワニさん指導)

伝統的自給農業をしているソミさんに日本でいったい何が学ぶことがあるのだろうか。昨年のパプアニューギニア行き以来考えていたことは、本当は学ぶべきは、私達日本の農業者の方だという思いでした。自然に見事に順応した彼らの農法は、日本で注目の「持続可能な農業」や「パーマカルチャー」などの原型に違いありません。むしろ、私達もそうですが、農業のやり方も含めた生活のあり方全体を考えることでしょう。1999年にソミさんの村の近くに道路が通るといいます。車が入り、村の生活や当然農業の営みも変わるでしょう。その中で、ソミさんは自給を維持しつつ商品作物を作り始めるのでしょうか。やがて、自給をある程度犠牲にしてモノカルチャーに走るのでしょうか。カネが問題になるのは生活が消費一辺倒になるときです。こちらでは、当然のことですが、機械力に頼る農業や、ほとんどエネルギーの浪費に近い工業化されたハウス加温栽培やウィンドレス畜舎も見てもらいました。どうしてここまで至ったのかを考えてもらいたかったし、また、水保では、工業開発のツケが結局どこにシワ寄せとして残るのかも知ってもらいたかった。私の中では繋がるのですが、ソミさんはどう見たのでしょうか。私にソミさんの日本語力ほどの英語力があつたらもっと話しができたのに、とそれが心残りです。

西川則孝さん(ハリエオさん指導)

年齢のせいもあるだろうが、深い落ち着きと一種のインテリジェンスを感じさせる人柄のハリエオさんと生活をともにし、錯

ついた英語を日本語に混ぜて語り合う中で、秋風の立ち始めるこの季節に珍しく深く考えさせられることの多かった小生である。



西川さんの畑にて(愛媛県丹原町)

彼が刺激を受け、興味を抱いた技術や考え方が、帰国後の彼の村で役に立つのだろうか。また、たとえ役に立ったとしても、10年、20年という長期的視野で見た時に、村の人たちの幸せに本当に貢献できているだろうか。なぜなら、小生が最終目標にしている自然農法は、まさにハリエオさんのニューギニアでの日常の中にあると感じるからだ。便利さと快適さは時として人間の生命力を低下させ、モノの過剰は心の貧しさを生む。戦後の日本がそのような道を辿り続けて20世紀の終末を迎えようとしている現在、学ぶべきは我々のほうではないだろうかという思いが、ハリエオさんが去った今も小生の心の中でめぐり回っている。

—「ちろりんだより」より抜粋—

国内研修生紹介

前々号(63)の本紙で登場の奥西真幸(まさき)さん(28才・男性)が、10月から国内研修生として研修をはじめました。大学卒業後、会社勤め2年9ヵ月を経て、現在は植木屋さんのアルバイトをしながら将来にむけ準備中。海外研修生の研修先での学びの他、組織運営の進め方等を課題に来年3月までの予定。よろしくお願ひします。



帰国研修生短 信

《スリランカ》

ジャヤンタさん(86年)

コロombo空港近くの姉のところに寄宿してスクールバスの運転手。週末は村に帰り農業。給料を貯めて耕耘機を買いたいとのこと。結婚はそれから?

アジャンタさん(88年)

伝統野菜を復活させ栽培。村の中で10人の作業者が出てきている。一方で週二回高校で日本語の教師。何とかして村人の中にグループをと願う。昨年6月結婚。一児誕生。

ナンダナさん(91年)

厳しい経済状況の中で奮闘中。小作農業者としての限界の中で苦闘。二児の父。

シャーンタさん(92年)

小作農として頑張ることは地元の農地をより多く借りること。そこにアジャンタさんと同じ伝統野菜を作付。エサ代の値上がりで養鶏は休止中。

《インドネシア》

アリさん(87年)サムスアリスさん(91年)

90年に始まったグループは、分裂して今は10人になってしまいました。2人で協力して、もう一度初めから作りなおしたい、と意欲を見せています。

ベディさん(88年)

奥さんのお父さんから引き継いだ食堂が軌道に乗り、忙しい毎日です。1月に3人目の子供も生まれました。男の子です。

ラディアエリタさん(94年)

ラッドさんは現在パダンにある大学で日本語を勉強しています。休みの時は洋裁も習います。卒業後、日本で学んだことをどうやっていかしていくのか、思案中です。

ウピさん(96年)

3月に帰国したウピさんは、6月に結婚してメダンに住んでいます。8月のツアーでは会えませんでした。お幸せにネ。

トンガ人がでっかいワケ

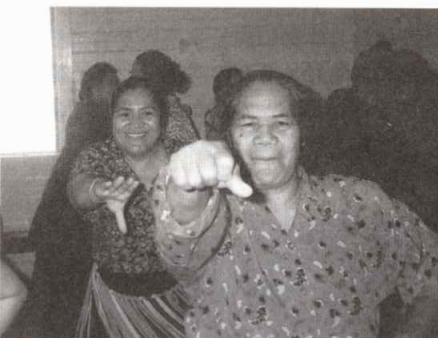
PHD協会に出入りする人が、活動の種類をこえて出会う場「寄り合い」。月に一度(第4土曜日)の集まりです。いろんな話題の提供がありますが、9月はソディにもかかわっている会員、藤木寿乃さん(病院勤務・神戸市)が登場。臨床検査技師として青年海外協力隊に参加した2年間の体験談でした。

その続きを。

世界で最初に太陽が昇る国、トンガ王国は人口約10万人、大小170の島々からなる南太平洋上の美しい国です。人々は時間や仕事に追われる事なく、いつもマイペース。ゆっくりと時は流れていきます。こんなトンガにも「開発」に伴う問題は多くあり、色んな事を考えさせられました。

まず、トンガ人は皆デカイ。ガリバー旅行記の巨人の国のモデルになったといわれ、百キロ以上の女性はざら、飛行機に乗る前には体重を測らなければなりません。主食はイモとココナッツミルクですが、何といってもその食べっぷりがすごく、その量にはたびたび驚かされました。小さい島なので、飢饉に備えて脂肪を貯えやすい体質になったという遺伝的要素もあり、昔から太ってはいましたが多量のイモをバランスよく食べていた頃は健康体でした。ところが、20年前の台風による災害の折に、外国から大量の小麦粉やコンビーフ等が食糧援助として持ち込まれて以来、輸入される安価な脂肪分の多い肉や缶ジュース、甘い菓子、バター等、多くの食べ物がイモに取って

替わりははじめました。その結果、近年肥満による高血圧、糖尿病、心臓病などの成人病が急増しているのです。特に都市部では肥満の女性が20%を越え、現在国をあげてのダイエット作戦を展開中で



「外でするのは恥ずかしい。」とせまい室内でエアロビクス。なんだか楽しそー。

す。伝統的なトンガ料理が見直され、栄養教育や運動が奨励されており、あちこちで楽しそうにエアロビクスに汗を流している光景が見られます。

トンガの総面積は対馬くらいで、資源といえば広〜い海のみ。主な輸出品は、カボチャ、スイカ、バナナ、ココナッツなどの農産物や魚類。最近、日本に輸出しているカボチャが貴重な収入源としてたくさん作られています。しかし、日本市場向けのきれいなカボチャを育てるために農薬を使用しており、カボチャの後は土が変わってイモを育てられないと聞いた事があります。最近では徐々に野菜作りが増えてきましたが、有機農業を取り入れて土地を痛めないでほしいもので

～9月の寄り合いより～

す。トンガでは昔から皆で助け合って暮らしてきました。持っている人が、ない人に分け与えるのは当たり前。自分達が食べていたら、外をゆく人にも一緒に食べませんかと挨拶する習慣があります。また家族が大勢で一緒に住んでいて、その結びつきも強く、身内同士が助け合うのも当然。だから、王族以外の人の貧富の差はそれほど大きくはなく、飢えている人やホームレスの人は一度も見かけませんでした。

物質的に貧しくても、家族を大切にしてい、楽しくのんびりと心豊かに暮らしているトンガの人達は、私に本当の豊かさとは何かを教えてくださいました。私個人としては、これ以上「開発」せずに、このまま変わらずにいてほしいとも思います。しかし、世界の流れの中ではいつまでもこのままではいられません。トンガ人も、“トンガはのんびりしていいでしょう。あまり変わりたくないわ”といいながらも、より便利な生活も望んでいます。

これからのトンガを考える時「開発」の中身を吟味し、必要なものごとを取り入れつつ弊害を最小限にとどめる姿勢が大切だと思います。

寄り合いの中で「PHDがトンガから研修生をよぶ必要は?…」との問いにはアジアからの研修生と同じような研修を行う必要はないかなーとの答えも。

ちがった形での協力ができればいいですね。

OPOSH <オポシ>

材料 5人分

鶏肉(骨なし)	1/2	サツ豆	5本
キャベツ	1/2	ジャガイモ	10コ
トマト	1コ	しょうが汁	大さじ1
玉ねぎ	1コ	塩	11cc

分量は必ずおに依りて考えが良し

作り方

1. 鶏、ジャガイモを 2x3cm 大に切る。
2. キャベツ、玉ねぎ、サツ豆、トマトは小切りにする。
3. しょうがをすりおろしてしょうが汁を作る。
4. 鍋に水を入れ、塩をかける。
5. 沸騰したらトマトを入れ、
6. 鶏肉を入れる。
7. ジャガイモを入れる。
8. 煮たりの野菜を入れる。
9. 具材が煮えたら、しょうが汁と塩を味付け。
10. かし煮から鍋をおろす。できあがり
11. 煮て食べる。

白井郁美さん作

～バザー、パワーアップ!!～

10月19日ワンワールドフェスティバルが、大阪の鶴見緑地公園で開かれました。今回は、オポシというパプアニューギニアの野菜スープを作りました。9月に試食会をし、気合十分だったのですが・・・暑かったせいか、メニューが珍しすぎたせいか(?) 苦戦。みんなで声をあげ、なんとか売り切ることができました。作り方は、とっても簡単。あっさりして、とてもおいしいので、みなさんも右のレシピでぜひ一度作ってみてください。

10月25日には明石公園ふれあいの祭典の国際協力NGOコーナーに参加。今年、例年のように物品だけでなくネパールのお茶(ティア)とクッキーも売りました。クッキーはボランティアのみなさんに作っていただき、前日袋詰めをした私たちもおいしそうに思わずに

れが・・・ティアは当日サビトリさんに指導(!?)してもらい一緒に売りました。なんと貝原兵庫県知事がサビトリさんからティアを。この日はたくさんの売上をあげることができました。

この他にも秋にはたくさんのバザーがありました。そのなかで、もっと事前にオリエンテーションをしたほうがよいのではないかと、展示の仕方考えたほうよいのではないかと、などたくさんの意見がでてきました。これを機会に一度バザーを大幅に見直したいと思っています。最初の試みとして今回アンケートを実施しています。また、PHDの物品販売について広く考えるための会も開きたいと思っていますので、興味のある方はご連絡ください。委託でバザーなどして下さる方も、ご連絡お待ちしております。

PHD NEWS

<会費・ご寄附寄託状況>

1997年 8月	165件	1,446,076円
9月	95件	2,531,019円
10月	78件	1,454,184円
合計	338件	5,431,279円

以上の通り、多くの皆様より会費とご寄附を頂戴いたしました。ご協力に厚くお礼申し上げます。

<トヨタ労組から車の寄贈>

トヨタ自動車労働組合(神戸進執行委員長)より10月2日タウンエース1台の寄贈をいただきました。研修移動、行事の荷物運びにと頼もしい1台です。11月の研修旅行もこれ皆さんのところをお訪ねします。ありがとうございます。



<西日本研修旅行のご案内>

社会学習とリーダーシップトレーニングを兼ねた研修旅行を下記の予定で行ないます。研修生との交流、同行希望の方お問い合わせ下さい。

日程：98年1月中旬～2月上旬
 予定コース：水俣～筑豊～北九州～広島～島根～岡山

〇月×日のPHD協会

職員 草地 肩コリ等で接骨医に通う。通院前夜、「あしたは首吊って来ますから」と帰宅。NGOの資金繰りの大変さを知るものには、あわてる一言。

職員 伊藤 いい年こいて水ボーソーで一週間休む。病後もカサプタ完治に時間がかかり2カ月ヒゲ面。これでやっと大人の仲間入り。

職員 小松 定例の健康診断の結果が送付され、過去3年の体重の推移を左から右へと見て減った減ったと喜ぶも実は表は右からで静かに。いまだ成長途上。

<皆さんからも会員をご紹介下さい>
 6月の会報をお送りした際に会費納入と会員紹介のお願いをしましたが、4月から9月までの半年で70名の方が新しくご入会下さいました。今年度は新たに200名の会員を増やそうとしています。ご入会、ご紹介を引き続き、みなさんにお願いします。

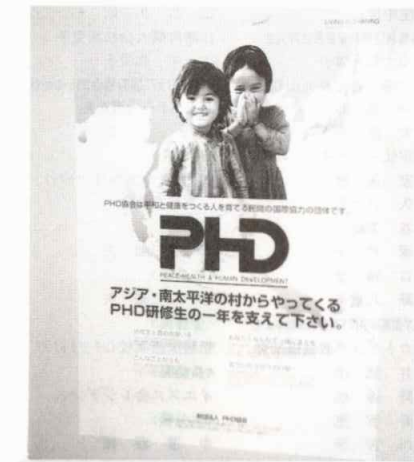
終身維持会員 3名
 PHD会員 55名
 友の会会員 12名
 ご紹介のために会報、パンフレットや新しいポスターを用意しています。

<ホストファミリー募集>

16期生4名(男2、女2)の滞家庭を募集します。詳しくはお問い合わせ下さい。
 期間：98年4月から6週間は毎日、以降月平均7日程度で99年3月末まで。
 場所：神戸三宮まで1時間程度で通える範囲。
 経費：当会規定の食費・滞在費をお支払いします。

<お待たせ。新ポスター完成>

前号で予告のポスターが出来上がりました。サイズはA2、カラー。学校、職場、公共の場など多くの方の目にとまる所に貼って、PHDを知っていただきたいと思ひます。ご希望枚数と送付先をお知らせ下さい。すぐお送りします。



「ここでも布に出会える」
 川本恭代

西宮の「染織工芸勝部」に訪問し、店主の勝部さんにカレンの布について色々教えていただきました。カレンの布は手作りの良さはあるものの、縦・横糸が同じ糸を使用しているために風合いに欠け、面白みが少ない。また草木染は色落ちがするものなので、(色落ちを気にするなら)できるだけ洗わないで済む物にしたほうが良い。自然の物で染めているので、同量の水や染料を使用しても水質や染料の育つ環境が違うので、二度と同じ色は出ないとのこと。自然の力の不思議をこんな所にも感じます。横糸に手紡ぎ糸を使用すると、手作りの風合いが出る。というのは手紡ぎは太さがまちまちのため、機械では織れないから。

10月のワンワールドフェスティバルでは、初めて反物(45×300cm)の切り売りに挑戦。(大きくて高い布はちょっと・・・)と言う方にも買ってもらいたい、少しでも多くの人にカレンの人達のこと・草木染のことを知ってもらいたい、布に触れてもらいたいという私達ソディのメンバーの思いからの提案です。勝部さんからの「草木染の良い布」という意見に気を良くしたソディでは、布を置いていただける「こだわりの店」「こだわりのバザー」の情報をお待ちしています。また、第3土曜(原則)に開かれるミーティング、その他活動に参加して、カレンの人達と交流を深めませんか!

メンバー募集中です。
 なおカレンの布は勝部(西宮市 0798-22-3481)、Nafsha(神戸市兵庫区 078-576-5630)色々(神戸市中央区 078-391-7499)、手しごとや(池田市 0727-61-0064)でも。
 問い合わせはPHD協会事務所まで。

免許の取り方伝授があり、転職先もひとつキープ。
 (家の遠い順)

10月から国内研修生の奥西さん。9月から週3ボランティアの大西緑さん、学生ボランティアの大谷緑さん、職員谷さん、現研修生ワニさん、元研修生ヤニさん、何やらまぎらわしい今日のごろ。

職員 田中 ワンワールドフェスティバルに車で出勤時、助手席でナビゲーター。高速道路の路線をミスリ、別路線へ。東日本ツアーの添乗に不安を残す。

職員 藤野 事務所ボランティアのおじさんが「Fさんも中でみたら若者に囲まれ若そうやけど、外で見かけた後ろ姿はやっぱり中年やね」と同年代相憐れむのご感想。

職員 谷 農家見学を希望するタクシー運転手S氏を助手席に車でワニさん研修先へ。緊張の運転もおホメの言葉と二種



編集後記

私は、長い間勤めた会社生活を終え、“今、私に何ができるか？”と考えた結果、8月末から楽しくPHD協会に通っています。

そして今回、LETTER編集に、少しですが参加しました。“充実した内容にするために”“興味を持って読んでもらうには？”と、みんなで知恵をしばって作り上げていく作業は、ほんと大変な事

です。毎回取り組んでいるPHD協会の方々はすごい!!いろいろと締切があって、なんだか思わず学生時代の試験前の勉強を思い出しました。カレンダーとにらめっこしながら悪戦苦闘して、LETTERが出来上がってきた時の喜びと言ったら!!そして、私は編集に携わっているおかげで、みなさんよりちょっとお先にLETTERを楽しんでいます。

本誌でLETTERも65号となりましたが、100号、200号と続けていくために、みんなの知恵を持ち寄りませんか?「こんなのを載せてほしい」「**についてもっと詳しく知りたい」などなど、たくさん

の意見、要望を集めれば、さらに充実したLETTERが作れるのではないのでしょうか。私も事務所におじゃました時に、ドンドン意見を聞いてもらおうと思っています。 M

編集メンバー

大西緑、岡部潤子、奥西真幸、青海、田中啓太郎、納屋知子、野添智子

新規会員・寄付者ご芳名は、
個人情報保護のため
掲載しておりません。